第 3.2.2.2 表(1)　文献による活断層・リニアメントの詳細（「九州の活構造」（1989））

断層番号	断層名または地名	確実度	活動度	長さ km	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10^4年	断層変位 縦ずれ (m)	断層変位 横ずれ (m)	平均変位速度 m/10^3年	備考
①	(市来断層系)	Ⅱ											串木野-永野陥没構造（通産省資源エネルギー庁，1985）の位置と一致.
a	(杉ノ峰東方)	Ⅲ		2	NE		直線状谷	市来酸性岩類	240				
b	庵の宇	Ⅲ		2.1	NE		直線状谷	市来酸性岩類	240				
							直線状谷	北薩中-新期火山岩類	>240				
c	五反田川断層	Ⅲ		14	E-NE		断層崖	北薩古期火山岩類	>820	N(1300)			五反田川断層は，串木野-永野陥没構造の北縁を限る.
d	逆瀬	Ⅲ		4.2	NE		直線状谷	市来酸性岩類	240				
e	宇都南方	Ⅲ		3	E		鞍部列	市来酸性岩類	240				
f	小堀	Ⅲ		1.8	ENE		直線状谷	川内溶結凝灰岩	170-200				
g	平木場	Ⅲ		1.3	ENE		直線状谷	川内溶結凝灰岩	170-200				
h	斉連ヶ池北方	Ⅲ		1.2	NE		鞍部列	川内溶結凝灰岩	170-200				
i	斉連ヶ池南方	Ⅱ		0.6	ENE		低断層崖	川内溶結凝灰岩	170-200	S(10)			
j	尾木場	Ⅲ		7.7	NE		直線状谷・鞍部列	川内溶結凝灰岩	170-200				
k	中ノ平	Ⅲ		3.1	NE		線状谷の連続	川内溶結凝灰岩	170-200				k・oの断層は，他の断層の走向と斜交.
l	福ヶ野	Ⅲ		10.5	ENE-NE		線状谷の連続	川内溶結凝灰岩	170-200				
m	野下南方	Ⅲ		2.5	NE		直線状谷	川内溶結凝灰岩	170-200				
n	上野東	Ⅲ		2	E		直線状谷	川内溶結凝灰岩	170-200				
o	鉾之谷	Ⅲ		3.6	NEN		直線状谷・鞍部列	川内溶結凝灰岩	170-200				
p	上野西	Ⅱ		4	E-ENE		低断層崖	川内溶結凝灰岩	170-200	S(10-25)			
							直線状谷	川内溶結凝灰岩	170-200				
q	大里	Ⅱ		0.8	NE		低断層崖	川内溶結凝灰岩	170-200	S(10)			
r	湯田北方	Ⅱ		4.6	E-ENE		低断層崖	川内溶結凝灰岩	170-200	S(15)			
							直線状谷	川内溶結凝灰岩	170-200				
s	湯田西方	Ⅱ		0.4	ENE		低断層崖	川内溶結凝灰岩	170-200	S(5)			
t	湯田南方	Ⅱ		1.3	ENE		低断層崖	川内溶結凝灰岩	170-200	S(5-10)			
u	皆田西	Ⅱ		1.1	ENE		低断層崖	川内溶結凝灰岩	170-200	S(5-10)			
v	堅山	Ⅱ		2.2	ENE		低断層崖	川内溶結凝灰岩	170-200	S(10)			
w	皆田東北方	Ⅱ		3.2	ENE		低断層崖	川内溶結凝灰岩	170-200	S(10-30)			
x	養母	Ⅲ		5.5	NE		直線状谷	重平山輝石安山岩	290				xは雁行する複数の断層よりなる.
y	大里川	Ⅲ		4.2	ENE		直線状谷						yは串木野-永野陥没構造の南縁を画する.
②	(浦之名断層系)	Ⅱ											
a		Ⅱ		1.1	NE		低断層崖	浦之名輝石安山岩	210	NW(40)			
b		Ⅱ		0.8	NE		低断層崖	浦之名輝石安山岩	210	NW(40)			浦之名輝石安山岩は，通産省資源エネルギー庁の北薩新期火山岩類の一部に相当.
c		Ⅲ		0.8	NE		直線状谷	浦之名輝石安山岩	210				
③	(愛宕山西方)	Ⅱ		0.7	NE		低断層崖	北薩新期火山岩類	220・240	NW（45）			
④	上床（寺山）												
a-1	上床（寺山）	Ⅲ		0.2	NE		高度不連続	川内輝石安山岩	290	NW			
a-2	上床（寺山）	Ⅲ		3.2	NE		直線状谷	川内輝石安山岩	290				
⑤	辻の堂断層	Ⅱ		2.2	NNE		断層崖	山地		NW			井上ほか(1982)の地質断層にほぼ沿う.
							低断層崖	河成低位段丘面		NW			河食崖の可能性あり.
⑥	出水断層系												
a	(矢筈峠)	Ⅱ	C	3.5	NE		断層崖・谷屈曲	山地斜面・尾根・谷	100-200	SE(130)	右(60)	縦0.065-0.13 横0.03-0.06	地質調査所(1980)の鮮新世-更新世前期の安山岩からなる山地斜面(開析谷)を変位.
b	(君名川)	Ⅰ		6.7	NE		断層崖・谷屈曲	山地斜面・尾根・谷		SE(80)	右(75)		
c	(栗毛野)	Ⅰ		1.4	NE		断層崖・谷屈曲	山地斜面・尾根・谷		SE(50)	右(50)		
d	(内木場)	Ⅰ	B	10.2	ENE		断層崖・谷屈曲	山地斜面・高位段丘の開析谷	20	S(100)	右(100)	0.5	内木場での断層露頭はN30-60°E,45°NW 高尾野ダム下位での断層露頭はN35°E,67°NW 西端部での断層露頭はN85°E,67°NW
e	(内木場北)	Ⅱ	C	1	ENE		低断層崖	高位段丘面	20	N(10)		0.05	高位段丘面を南落ち変位させる.
f	(尾ヶ無)	Ⅲ		1	ENE		直線状谷・鞍部	山地斜面					
g	(鷹首山)	Ⅲ		1.7	EW		鞍部列	山地斜面					
⑦	笠山周辺断層群												
a-1	(平坊)	Ⅲ		2	NE		鞍部列	山地斜面					長谷ほか（1984）の長島火山岩類からなる山地斜面
a-2	(江内)	Ⅱ	C	2.8	ENE		鞍部列・低断層崖	山地斜面	200	SE(15)		0.0075	
b	(大淵川)	Ⅲ		1.9	NE		鞍部列	山地斜面					
c	(笠山)	Ⅱ	C	4.5	NE		鞍部列・断層崖	山地斜面	200	SE(60)		0.03	
d	(松ヶ根)	Ⅲ		4.9	ENE		鞍部列	溶岩台地面					長谷ほか（1984）の長島火山岩類からなる溶岩台地面を変位させる
e	(大漉)	Ⅱ	C	8.3	ENE-NNE		鞍部列・断層崖	溶岩台地面	200	N-W(30)		0.015	
⑧	長島断層群												
a	(牧)	Ⅲ		7.6	NE		鞍部列	山地斜面					長谷ほか（1984）の長島火山岩類からなる山地斜面
b	(火ノ浦)	Ⅲ		3.5	NE		鞍部列	山地斜面					
c-1	(毎床牧場)	Ⅱ	C	7.8	NNE		鞍部列・断層崖	溶岩台地面	200	W(120)		0.06	長谷ほか（1984）の長島火山岩類からなる溶岩台地面を変位させる
c-2	赤崎川	Ⅲ	C	1	NE		高度差・直線状谷	火山岩台地面	200±	NW30-40		0.017	
d-1	(犬鹿倉)	Ⅱ		2.3	NS		鞍部列	溶岩台地面	200	W(20)		0.01	
d-2	行人岳北西	Ⅱ	C	2.2	NE		高度差・鞍部列	火山岩台地面	200±	NW20-30		0.012	
⑨	長島西断層												
a	(米山)	Ⅱ	C	5.4	NNE		鞍部列・断層崖	溶岩台地面	200	W(30)		0.015	長谷ほか（1984）の長島火山岩類からなる溶岩台地面を変位させる
b-1	(川内)	Ⅱ	C	1.2	NE		鞍部列・断層崖	溶岩台地面	200	W(40)		0.02	
b-2	長島西（平尾－小浜）	Ⅱ	C	3.5	NE		高度差・直線状谷・鞍部地形	火山岩台地面	200±	NW40-60		0.025	

＊断層名の（　）は新称を表す.

第 3.2.2.2 表(2)　文献による活断層・リニアメントの詳細（「[新編]日本の活断層」(1991)）

断層番号	断層名または地名	確実度	活動度	長さ km	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10^4年	断層変位 縦ずれ (m)	断層変位 横ずれ (m)	平均変位速度 m/10^3年	備考
①	市来断層系	Ⅱ-Ⅲ		0.5-14	EW-NE								多数の断層からなり，これらの断層群は串木野-永野陥没構造の中に認められる．
c	五反田断層	Ⅱ		14	EW-NE		断層崖	北薩古期火山岩類	>400	N(1300)			
							直線状谷	北薩中-新期火山岩類	200-450				五反田断層は，串木野-永野陥没構造の北縁を限る．
i	［斉連ヶ池南方］	Ⅱ		0.5	ENE		低断層崖	川内溶結凝灰岩類	120-200	S(10)			
p	［上野西］	Ⅱ		4	EW-ENE		低断層崖	川内溶結凝灰岩類	120-200	S(10-25)			
q	［大里］	Ⅱ		1	NE		低断層崖	川内溶結凝灰岩類	120-200	S(10)			いずれの断層も川内玄武岩類の噴出後は活動しておらず，川内玄武岩類の年代は150万年より若い．
r	［湯田北方］	Ⅱ		5	EW-ENE		低断層崖	川内溶結凝灰岩類	120-200	S(15)			
s	［湯田西方］	Ⅱ		0.5	ENE		低断層崖	川内溶結凝灰岩類	120-200	S(5)			
t	［湯田南方］	Ⅱ		1.5	ENE		低断層崖	川内溶結凝灰岩類	120-200	S(5-10)			
u	［皆田南］	Ⅱ		1	ENE		低断層崖	川内溶結凝灰岩類	120-200	S(5-10)			
v	［堅山］	Ⅱ		2	ENE		低断層崖	川内溶結凝灰岩類	120-200	S(10)			
w	［背田東北］	Ⅱ		3	ENE		低断層崖	川内溶結凝灰岩類	120-200	S(10-30)			
②	浦之名断層系	Ⅱ		1	NE								
a	［浦之名Ⅰ］	Ⅱ		1	NE		断層崖	溶岩台地	210	NW(40)			溶岩台地は，浦之名輝石安山岩類（長谷・壇原,1985）からなる．
b	［浦之名Ⅱ］	Ⅱ		1	NE		断層崖	溶岩台地	210	NW(40)			
③	(愛宕山西方)	Ⅱ		1	NE		断層崖	溶岩台地	220-240	NW（45）			
④	上床（寺山）	Ⅲ		2.6	NE		直線状谷	川内輝石安山岩					
⑤	辻の堂断層	Ⅱ		2.2	NNE		断層崖	山地高度		NW			井上ほか(1982)の地質断層にほぼ一致．
							低断層崖	低位段丘面		NW			河食崖の可能性あり．
⑥	出水断層系												
a	欠筈峠断層	Ⅱ	C	3.5	NE		断層崖	山地斜面	100-200	SE(130)		0.07-0.1	鮮新世-更新世前期の安山岩類．
							谷屈曲	尾根・谷			R(60)	0.03-0.06	
b	君名川断層	Ⅰ		6.7	NE		断層崖	山地斜面		SE(80)			
							谷屈曲	尾根・谷			R(75)		
c	栗毛野断層	Ⅰ		1.4	NE		断層崖	山地斜面		SE(50)			
							谷屈曲	尾根・谷			R(50)		
d	内木場断層	Ⅰ	B	10.2	ENE		断層崖	山地斜面		S(100)			
							谷屈曲	高位段丘の開析谷	20		R(100)	0.5	
	［内木場］					N	断層露頭	四万十層群中					N30-60°E,45°NW
	［高尾野ダム下流］					N	断層露頭	四万十層群中					N35°E,67°NW
	［大溜池北方］					N	断層露頭	四万十層群中					N85°E,67°NW
e	内木場北断層	Ⅱ	C	1	ENE		低断層崖	高位段丘面	20	N(10)		0.05	高位段丘面を南落ちに変位させる．
f	尾ヶ無	Ⅲ		1	ENE		直線状谷	山地斜面					
							鞍部	山地斜面					
g	鷹首山	Ⅲ		1.7	EW		鞍部列	山地斜面					
⑦	笠山周辺断層群												
a	江内	Ⅱ	D	4.8	ENE		低断層崖・鞍部列	山地斜面	200	SE(15)		0.008	長島火山岩類（長谷ほか,1984）
b	大淵川	Ⅲ		1.9	NE		鞍部列	山地斜面					
c	笠山	Ⅱ	C	4.5	NE		断層崖・鞍部列	山地斜面	200	SE(60)		0.03	
d	松ヶ根	Ⅲ		4.9	ENE		鞍部列	火山岩台地面					
e	大漉	Ⅱ	C	8.3	ENE-NNE		断層崖・鞍部列	火山岩台地面	200	N-NE(30)		0.02	
⑧	長島断層群												
a	牧	Ⅲ		7.6	NE		鞍部列	山地斜面					長島火山岩類（長谷ほか,1984）
b	火ノ浦	Ⅲ		3.5	NE		鞍部列	山地斜面					
c	毎床牧場	Ⅱ	C	7.8	NNE		鞍部列・断層崖	火山岩台地面	200	W(120)		0.06	
d	犬鹿倉	Ⅱ	C	2.3	NS		鞍部列	火山岩台地面	200	W(20)		0.01	
⑨	長島西断層												
a	米山	Ⅱ	C	5.4	NNE		断層崖	火山岩台地面	200	NW(30)		0.02	長島火山岩類（長谷ほか,1984）
							鞍部列	火山岩台地面					
b	平尾-小浜	Ⅱ	C	4.7	NE		高度不連続	火山岩台地面	200	NW(40-60)		0.03	長島火山岩類（長谷ほか,1984）
							直線状谷	火山岩台地面					
							鞍部地形	火山岩台地面					

第3.2.2.3表　リニアメントの判読基準

リニアメント[1]のランク	山地・丘陵内		段丘面，扇状地等の平坦面上	
	崖・鞍部等	尾根・水系の屈曲	崖・溝状凹地等	撓み・傾斜面
L_A 変位地形[2]と認定できる数多くの地形要素が認められ，他の成因による可能性が否定でき，かつ，新しい基準地形に累積的な不連続が認められ，その位置が確実に認定できるもの。	新鮮な崖，鞍部等の連続の良い直線状ないし弧状の配列からなり，連続区間が長く，両側の地形形態が類似し，一様な高度差が認められ，かつ，延長上の段丘面に同方向の崖が認められるもの。	尾根・水系が長い区間で同方向に屈曲し，かつ， (1)屈曲は鮮明であり，河川の規模と屈曲量との相関。 あるいは， (2)閉塞丘，風隙等の特異地形。 のいずれかが認められるもの。	崖，溝状凹地等の連続の良い配列からなり，方向が水系の側刻方向と異なり，延長が長く，かつ， (1)時代の異なる複数の段丘面に連続し，古い段丘面ほど比高が大きい。 (2)崖面が山地・丘陵側に向き，段丘面の傾斜方向とは逆向きを示す。 (3)山地・丘陵内の明瞭な崖，鞍部等に連続する。 のいずれかが認められるもの。	a. 撓み状の形態が鮮明であり，その量が大きいもの。 b. 平坦面の傾斜角が大きいもの。 上記ａ，ｂのうち，量や傾斜角に累積性があり，かつ，延長が長いもの。
L_B 変位地形と認定できる地形要素及び新しい基準地形に不連続が認められるものの，位置に不確実さがあるもの，あるいは，変位地形として認定できる地形要素がやや少なく，その他の成因によるものである可能性が若干残るもの。	崖，鞍部等の連続の良い直線状ないし弧状の配列からなり，連続区間が長く，両側の地形形態が類似し，一様な高度差が認められ，かつ， (1)地形形態は鮮明であるもの。 あるいは， (2)地形形態はやや不鮮明であるが，延長上の段丘面に同方向の崖が認められるもの。	尾根・水系が同方向に屈曲し，屈曲は鮮明であり，かつ， (1)連続区間は長いが，河川の規模と屈曲量との相関，あるいは，閉塞丘，風隙等の特異な地形のいずれも認められないもの。 あるいは， (2)連続区間は短いが，河川の規模と屈曲量との相関があり，閉塞丘，風隙等の特異な地形が認められるもの。	崖，溝状凹地等の連続の良い配列からなり，延長は短いが方向が水系の側刻方向と異なるもの，あるいは，方向が水系の側刻方向であるが延長が長いもののうち， (1)時代の異なる複数の段丘面に連続し，古い段丘面ほど比高が大きい。 (2)崖面が山地・丘陵側に向き段丘面の傾斜方向とは逆向きを示す。 (3)山地・丘陵内の明瞭な崖，鞍部等に連続する。 のいずれかが認められるもの。	上記a，bのうち，延長は短いが，量や傾斜角に累積性があり，段丘面の傾斜方向とは逆向きであるもの，あるいは，累積性は認められないが，延長の長いもの。 撓み状の形態が鮮明であり，その量が小さいが，延長が長く，傾斜方向が段丘面の傾斜方向とは逆向きのもの。
L_C 変位地形と認定できる地形要素が認められるが，リニアメントの両側の基準地形が同一であるか否かの認定に不確実さがあり，その他の成因によるものである可能性があるもの，あるいは，比較的大きな不連続が認められるものの，新しい地形面での変位が不明瞭なもの。	崖，鞍部等の直線状ないし弧状の配列からなり，両側で一様な高度差があるが，地形形態は一部で不鮮明，不連続か，あるいは，延長上の段丘面に崖が認められないもの。	尾根・水系が同方向に屈曲し，かつ， (1)連続区間は長いが，屈曲は不鮮明であり，屈曲量も小さく，河川の規模と屈曲量との相関が認められないもの。 あるいは， (2)連続区間は短いが，屈曲は鮮明であり，河川の規模と屈曲量との相関が認められるもの。	崖，溝状凹地等の配列からなり，かつ， (1)方向が水系の側刻方向とやや異なり，時代の異なる複数の段丘面に連続するが，延長が短いもの。 あるいは， (2)方向が水系の側刻方向であるが，延長が長いもの。	撓み状の形態が鮮明なもののうち，上記以外のもの。 撓み状の形態が不鮮明であり，平坦面の傾斜角も小さいが，延長が長いもの，あるいは，延長が短いが段丘面の傾斜方向とは逆向きであるもの。
L_D 基準地形が古く，リニアメントをなす地形がやや開析が進んでいるもの，あるいは，新しい基準地形面上に認められるものの，延長が短いか，その比高や屈曲量が小さいため，変位地形かその他の成因によるものか識別が困難なもの。	崖，鞍部等の直線状ないし弧状の配列からなるが，連続が断続的か，あるいは，地形形態が不鮮明であり，両側の高度差が一様ではないもの。	尾根・水系が同方向に屈曲しているが，連続区間が短く，屈曲が不鮮明であり，屈曲量が小さいもの。	崖，溝状凹地等の配列からなるが，延長が短いもの。	撓み状の形態が不鮮明なもの及び平坦面の傾斜角が小さいもののうち，上記以外のもの。

1) リニアメント：活断層や活褶曲に起因した変動地形である可能性がある地形

2) 変位地形：活断層や活褶曲に起因した変動地形

第 3.2.2.4 表　敷地前面海域の地層区分

地層名	推定される岩質	記録パターンの特徴	分　布
A層	未固結の砂	海底面と平行な弱い水平な線状パターンが認められ，下層の凹地や浸食面を被い堆積している。また島嶼の周辺や海峡の出口では堆を形成する。 B_{1-1}層を不整合関係で覆う。	甑島沿岸部や水深約200m以深を除いてほぼ全域に分布する。
B_{1-1}層	半固結砂岩	沿岸部で南西に緩く傾斜した波状の，大陸棚縁辺部では，典型的な前置層状のパターンが認められる。 B_{1-2}層を不整合関係で覆う。	甑島，甑海峡北側の沿岸部及び水深約500m以深を除いてほぼ全域に分布する。
B_{1-2}層	半固結砂岩	甑海峡南側では，振幅が変化する起伏をもった波状を，甑海峡北側では沖合に傾斜した連続性の乏しい波状パターンが認められる。 B_{1-3}層を整合的に覆うが，B_{2-1}層を不整合関係で覆う。	甑海峡南側の堆積盆地の一部及び甑海峡北側の堆積盆地に分布する。
B_{1-3}層	半固結凝灰質砂岩	甑海峡南側では，振幅が一定でない波状を，甑海峡北側では沖合に傾斜した連続性の乏しい波状パターンが認められる。 B_{2-1}層を不整合関係に覆う。	甑海峡南側の堆積盆地の一部及び甑海峡北側の堆積盆地に分布する。
B_{2-1}層	半固結凝灰質砂岩	甑海峡南側では，北東～南西に傾斜した複数の前置層状のパターンが，甑海峡北側では傾斜が一定でない波状のパターンが認められる。 B_{2-3}層を不整合関係に覆う。	甑海峡北側の一部や沿岸部を除いてほぼ全域に分布する。
B_{2-2}層	砂岩・泥岩及びこれらの互層	傾斜して連続する線状のパターンが認められる。	甑島より西側の海域に分布し，敷地前面海域では欠如する。
B_{2-3}層	半固結凝灰質砂岩・礫岩	甑海峡南側では大陸斜面下で前置層状パターンが，甑海峡北側では傾斜が一定しない線状～波状のパターンが認められ，全体に振幅の変化が激しい。 B_3層を不整合関係に覆う。	甑海峡北側の一部や沿岸部を除いてほぼ全域に分布する。
B_3層	半固結砂岩	甑海峡南側の堆積盆地内では複数の前置層状パターンが，甑海峡北側では振幅の大きな波状パターンが認められる。 C層の盆地を不整合関係に覆う。	甑海峡北側の一部や沿岸部を除いてほぼ全域に分布する。
C層	砂岩・泥岩及びこれらの互層	下位層と平行な連続性のある線状パターンが認められる。 D_1層を不整合関係に覆う。	甑海峡南側の堆積盆地内に分布する。
D_1層	凝灰岩	上部はC層と同じような連続した線状パターンが，下部は連続性に乏しい振幅が変化する乱れたパターンが認められる。また甑海峡北側の沿岸部では沖合に傾斜した振幅の大きな線状パターンが認められる。 D_2層およびE層を不整合関係に覆う。	甑島沿岸部や島嶼周辺を除いて，ほぼ全域に分布する。
V層	火山岩類	音響基盤であり，内部反射は認められない。	沿岸部に局所的に分布する。
D_2層	凝灰岩	半音響基盤であり，沿岸部では乱れたパターンが認められる。 E層を不整合関係に覆う。	沿岸部の一部で海底面付近に分布し，それを除くほぼ全域で上位層に覆われると推定される。
E層	砂岩・泥岩・変成岩・花崗岩	音響基盤であり，一部で乱れた内部反射が認められる。	甑島沿岸部や島嶼周辺で海底面付近に分布し，それを除くほぼ全域で上位層に覆われると推定される。

第 3.2.2.5 表　敷地周辺陸域と敷地前面海域の地層対比表

地質時代				陸域の地質	海域の地層
新生代	第四紀	完新世		沖積層・砂丘堆積物など	A　層
		更新世	後期	入戸火砕流堆積物	B_{1-1}層
				阿多火砕流堆積物	B_{1-2}層
			中期	阿多鳥浜火砕流堆積物	B_{1-3}層
				加久藤火砕流堆積物	
				薗牟田火山岩類	B_{2-1}層
				小林火砕流堆積物	
				樋脇火砕流堆積物	
					B_{2-2}層
					B_{2-3}層
			前期	北薩新期火山岩類	B_3　層
					C　層
	新第三紀	鮮新世		北薩中期火山岩類	D_1層 / V 層
		中新世		北薩古期火山岩類	D_2層
				紫尾山花崗岩類など	E　層
	古第三紀			上甑島層群	
中生代	白亜紀			姫浦層群	
				四万十層群	
	ジュラ紀			秩父層群	

第 3.2.2.6 表　敷地前面海域の主要断層一覧表

断層名		F－A			F－B	F－C	
		Fa－１	Fa－２	Fa－３		Fc－１	Fc－２
長さ		最大約19km	最大約７km	最大約11km	最大約22km	最大約24km	最大約28km
	後期更新世の活動を考慮する長さ	最大約18km	最大約７km	最大約11km	最大約15km	最大約16km	最大約４km
		最大約18km				最大約16km	
走向		NE－SW～E－W	E－W	E－W	E－W～NE－SW	NE－SW	NE－SW～NNE－SSW
相対的落下側		SE～S	S	S	S～SE	SE	SE～ESE
断層により	変位又は変形の可能性がある最上位層	A層	A層	A層	B_{1-1}層下部	B_{1-1}層下部	B_{1-1}層下部
	変位又は変形を受けていない地層	なし	なし	なし	B_{1-1}層上部	B_{1-1}層上部	B_{1-1}層上部
備考		F－A断層として一括評価				F－C断層として一括評価	

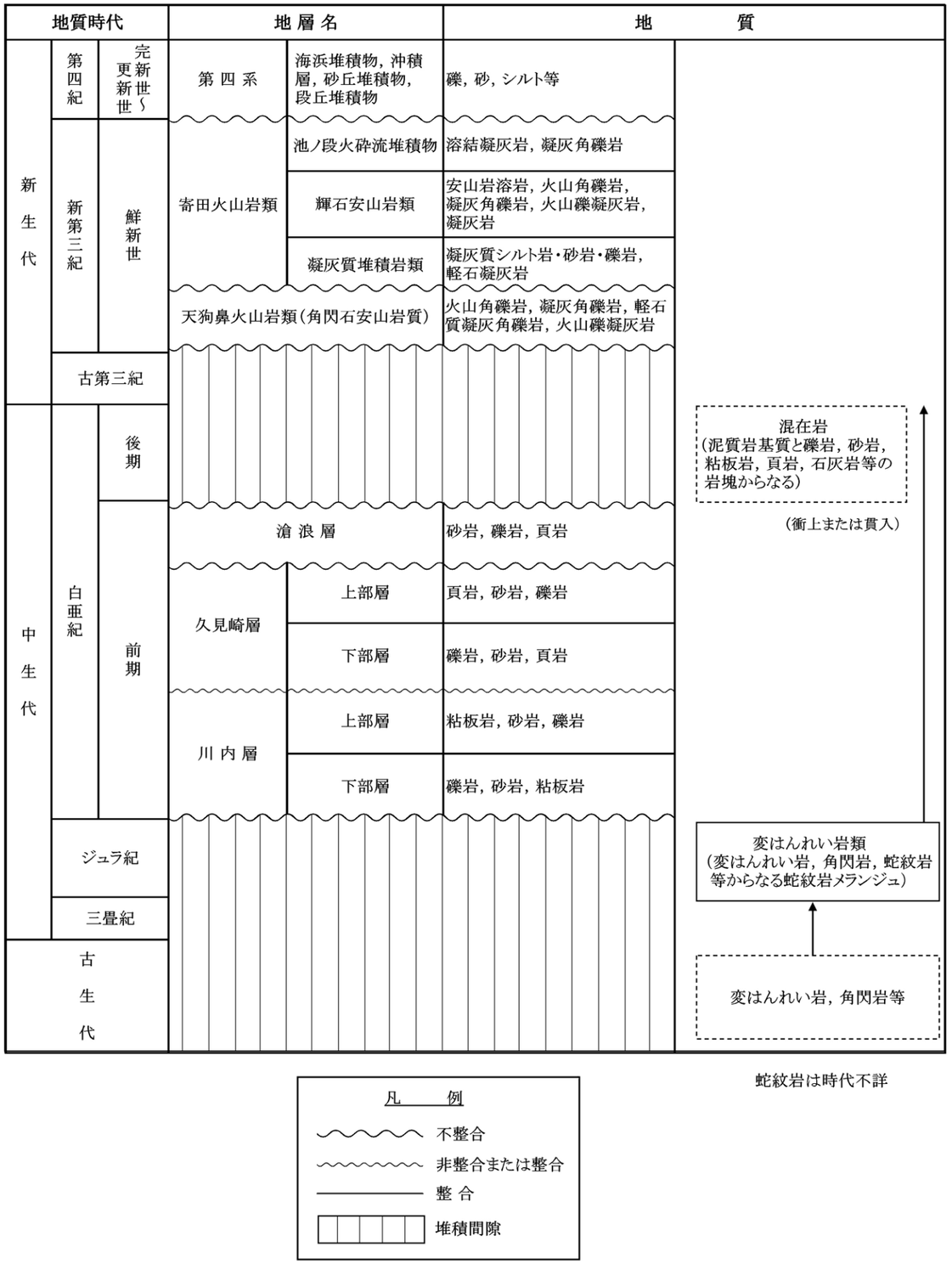
断層名		F－D	F－E	F－F		
				Ff－１	Ff－２	Ff－３
長さ		最大約16km以上	最大約９km	最大約８km	最大約10km	最大約10km
	後期更新世の活動を考慮する長さ	最大約10km	最大約９km	最大約８km	最大約10km	最大約10km
				最大約18km		
走向		NE－SW	E－W	NE－SW	NE－SW	NNE－SSW
相対的落下側		NW	N	NW	SE	WNW
断層により	変位又は変形の可能性がある最上位層	B_{1-2}層	B_{1-1}層下部	B_{1-1}層下部	B_{1-1}層下部	B_{1-1}層下部
	変位又は変形を受けていない地層	B_{1-1}層	B_{1-1}層上部	B_{1-1}層上部	B_{1-1}層上部	B_{1-1}層上部
備考				F－F断層として一括評価		

第 3.2.2.7 表　敷地周辺海域の主要断層一覧表

断層名		甑島西方断層	男女海盆北方断層	男女海盆断層	長崎海脚断層	八代海海底断層群		
						Fy－A断層群	Fy－B断層群	Fy－C断層群
敷地からの距離		約63km	約103km	約106km	約80km	約58km	約42km	約37km
地形的位置		甑島西方	男女海盆北方	男女海盆	長崎海脚南東	八代海北東部	八代海南西部	八代海南西部
長さ		最大約80km	最大約52km	最大約51km	最大約87km	最大約18km	最大約16km	最大約15km
	後期更新世の活動を考慮する長さ	最大約63km	最大約51km	最大約51km	最大約87km	最大約18km	最大約16km	最大約15km
走向		N－S～NE－SW	E－W	NNE－SSW～NE－SW	NE－SW	NE－SW	NE－SW	NE－SW
相対的落下側		W～NW	N	WNW～NW	SE	NW	NW	SE
断層により	変位又は変形の可能性がある最上位層	海底面	海底面	海底面	海底面	海底面	A層	A層
	変位又は変形を受けていない地層	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
文献による長さ*		45km（1） 32km（2） 77km（3） 70km（4）	12km（2）	36km（2） 30km（3）	88km（1） 17km（2） 29km（3） 57km（4）	26km（3） 27km（5）		
備考						布田川・日奈久断層帯の海域延長部として、陸域を含めた最大約90kmとして評価		笠山周辺断層群及び水俣南断層群の海域延長部として、陸域を含めた最大約32kmとして評価

＊：　(1)：地質調査所　「日本地質アトラス（第２版）」(1992)　(2)：海上保安庁水路部　20万分の１大陸棚の海の基本図(1977)
(3)：活断層研究会　「［新編］日本の活断層」(1991)　(4)：徳山ほか　「日本海周辺海域中新世最末期以降の構造発達史」(2001)
(5)：地震調査委員会　「布田川・日奈久断層帯の長期評価について」(2002)

第 3.2.4.1 表　敷地の地質層序



蛇紋岩は時代不詳

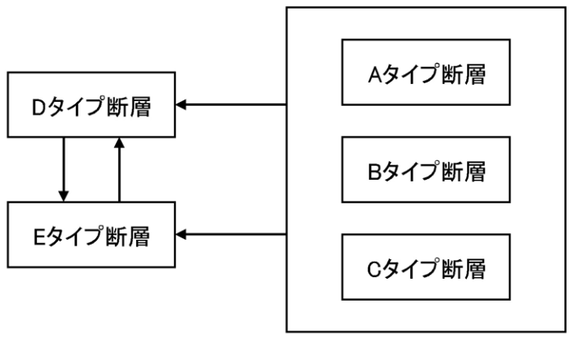
第 3.2.4.2 表　断層タイプ区分表

断層タイプ	走向・傾斜	主な変位様式
A	Ｎ－Ｓ系・低角度	逆断層
B	Ｅ－Ｗ系・低角度	正断層
C	－	層面断層（地層境界）
D	Ｎ－Ｓ系・高角度	正断層（一部横ずれ断層）
E	Ｅ－Ｗ系・高角度	正断層（一部横ずれ断層）

第 3.2.4.3 表　各断層タイプの切断関係

切る断層タイプ ＼ 切られる断層タイプ	A	B	C	D	E
A		0	0	0	0
B	2		0	2	1
C	0	0		0	0
D	0	10	0		13
E	1	2	0	8	

※変はんれい岩類および混在岩から派生する断層は除く



※凡例　　Ｄタイプ断層→Ｅタイプ断層：Ｅタイプ断層はＤタイプ断層を切る。

第 3.2.4.4 表　トレンチ内断層の性状

断層	走向／傾斜	破砕の幅 (cm)	性状・連続性
a （Ａ－47 断層）	N10° E／35° NW	50～180	久見崎層下部層と上部層を境する逆断層。
b	N60° E／47° NW	10～50	a と同系統の断層と考えられる。
c	N63° E／47° NW	10～20	b と同じ性状。
d	ＮＳ／85° W	50	両側で地層はほとんど変わらない。
e	N45° W／50° SW	700	地層を切るが両側で地層の方向は変化しない。延長上に露頭なし。
f	Ｎ７° W／55° SW	数 cm	規模小さく、延長上に露頭なし。
g	Ｎ８° W／85° SW	５～15	〃
h	N25° W／75° SW	２～４	〃
i	N63° E／47° NW	１～３	b と同じ性状。

第3.2.4.5表(1)　断層性状一覧表（その１）

断層名	確認位置		走向／傾斜	破砕の幅(cm)	性状
	坑名	起点からの距離(m)			
B－1	2号炉 N－S坑	13～15	N55° W／25° NE	10～20	境界部に幅１cmの粘土状物質（灰色）を伴う。
D－2	1号炉 本坑	36.5～39.5	N５° ～28° E／85～90° NW	150～250	幅0.5cm～３cmの粘土状物質を伴う。
	1号炉 S坑	43	N31° ～45° E／65° SE	30～100	粘土状物質（灰色）薄層を伴う。
E－3	2号炉 N－S坑	40～42	N75° E／56° NW	10～40	一部に幅１cm～２cmの粘土状物質を伴う。
D－4 －1	1号炉 N坑	44～46	N20° E／45° NW	30～40	下盤に幅５cm～６cmの粘土状物質を伴う。
D－4 －2	2号炉 N－S坑	80～85	N35° E／70° NW	10～30	境界部の一部に幅１cmの粘土状物質（黒色）を伴う。
A－5	2号炉 W－E坑	W坑より34	N32° E／45° NW	30～45	境界部に幅0.5cm～６cmの粘土状物質（灰色、黒色、黄白色）を伴う。局部的に破砕幅90cm。
D－6	2号炉 W－E坑	46～47	N43° E／51° SE	30～50	部分的に幅１cm～３cm粘土状物質（黒～灰色）を伴う。
D－8	1号炉 N－E坑	78	N７° E～22° W／47° NW～85° NE	100～140	両境界部に幅２cm～４cmの粘土状物質（黒色）を伴う。
	2号炉 W－E坑	111～114	N５° E／64° NW	140～200	境界部に幅１cm～２cmの粘土状物質（黒～灰色）を伴う。
D－9	1号炉 N－E坑	95.5	N13° E／76° NW～SE	50～100	薄い粘土状物質（灰～黒色）を伴う。
	2号炉 W－E坑	128	N22° E／80° NW	90～120	幅５cmの粘土状物質（黒色）を伴う。
C－10	2号炉 斜坑	斜坑口より35～38	N10° E／12° NW	100～130	境界部に粘土状物質を伴う。
A－11	2号炉 斜坑	58～60	N52° E／27° NW	５～40	境界部の一部に幅２cm～４cm粘土状物質を伴う。
E－13	2号炉 追跡坑	E坑交点より20	N70° ～80° E／50° ～70° NW	数cm～30	幅１cm～２cmの粘土状物質（灰色）を伴う。
D－15	1号炉 本坑	18.8	N33° W／85° NE	５～10	粘土状物質（黒色）からなる。
D－16	1号炉 本坑	26.5	N10° W／57° SW	75～100	幅0.5cm～１cmの粘土状物質を伴う。
D－20	1号炉 本坑	58.5～60.5	N21° E～30° W／40° SE～37° NE	40～50	両境界部に幅３cm～15cmの粘土状物質（黒色）を伴う。
D－21	1号炉 本坑	76.5	N13° E／82° SE	20～30	幅２cm以下の粘土状物質（黒色）を伴う。

第3.2.4.5表(2)　断層性状一覧表（その２）

断層名	確認位置		走向／傾斜	破砕の幅(cm)	性状
	坑名	起点からの距離(m)			
D－22	１号炉 本坑	68.5	N10° W／78° SW	25～50	幅１cm～２cmの連続性のない粘土状物質（黒色）を伴う。
E－25	２号炉 N－S坑	53～55	N66° W／79° SW	１～２	方解石・石英脈が充填している。
	２号炉 W－E坑	63～75	N60° W～80° E／59° NE～50° SE	0.5～３	幅0.5cmの粘土状物質（白色）を伴う。
D－31	１号炉 本坑	135.5	N10° W／59° NE	30～40	砂状物質からなる。
D－33	１号炉 本坑	142.5	N17° W／49° NE	55	砂状～礫状物質からなる。
E－43	２号炉 N－S坑	32～33	N56° W／78° NE	25～40	一部に粘土状物質（灰色）を伴う。
D－65	１号炉 N－E坑	94	N37° E／57～90° SE	50～100	幅１cm～３cmの粘土状物質を伴う。
D－67	１号炉 N－E坑	99	N13° W／67° NE	30～40	幅１cmの粘土状物質（黒色）を伴う。
D－69	１号炉 N－E坑	104	N25° E／70° SE	100～120	上盤に幅10cm、下盤に幅20cm～40cmの粘土状（灰～黒色）～礫状物質を伴う。
D－72	１号炉 本坑	84.5～86.5	N３° W／45° NE	20～50	幅５cm～25cmの粘土状物質（黒色）を伴う。
	１号炉 N－E坑	135	N15° E／70° SE	70～100	下盤側に幅１cmの粘土状物質（黒色）を伴う。
D－76	１号炉 本坑	146.5	N７° W／47° NE	100	礫状物質からなる。
	１号炉 N－E坑	160	N25° W／46° NE	50	薄い粘土状物質を伴う。
D－77	１号炉 N－E坑	163	N23° W／80° SW	10～50	礫状物質からなり固結している。
D－80	１号炉 N－E坑	切羽	N13° W／80° NE	60～80	境界部に薄い粘土状物質を伴う。
E－83	１号炉 S坑	５～８	N43° W／57° NE	５～25	境界部に粘土状物質（黒色）を伴う。
B－85	１号炉 S坑	21.4	N66° W／42° NE	１～10	粘土状（灰色）～礫状物質からなる。
E－86	１号炉 S坑	34～38	N59° W／58° NE	50～100	幅１cm～２cmの粘土状物質（黒色）を伴う。

第 3.2.4.6 表　石英粒子表面構造の分類基準

分類		石英粒子表面構造				備考
		粒子と嶺の形状	表面の平滑さ	起伏	空洞	
0		粒形は角ばっている 嶺は鋭く尖っている	なめらか	なし	なし	
I	a	粒形は角ばっている 嶺は尖っている	なめらか	部分的	小穴点在	中期更新世～ 後期更新世
	b	粒形は角ばっている 嶺はやや鈍く尖っている	なめらか	部分的	小穴点在	
	c	粒形は角ばっている 嶺は丸くなっている	なめらか	1～3μm	部分的に小穴密集	前期鮮新世～ 中期更新世
II		粒形はやや角ばっている 嶺の形跡あり	部分的になめらか	3～5μm	小穴の富む箇所を有する	後期中新世～ 中期鮮新世
III		粒形は著しい丸みを帯びる 嶺の形跡なし	かなり起伏に富む．平坦面を残さない	5～10μm	穴どうしが干渉し、複雑な形状を示す	
IV		粒形は完全に丸い	著しい起伏がある	10～50μm	空洞の占める割合が高い	中新世以前
コーティング型		石英粒子表面や空洞に微細な石英結晶や粘土鉱物が二次的に晶出している				コーティング物質の生成年代（中期鮮新世以前）

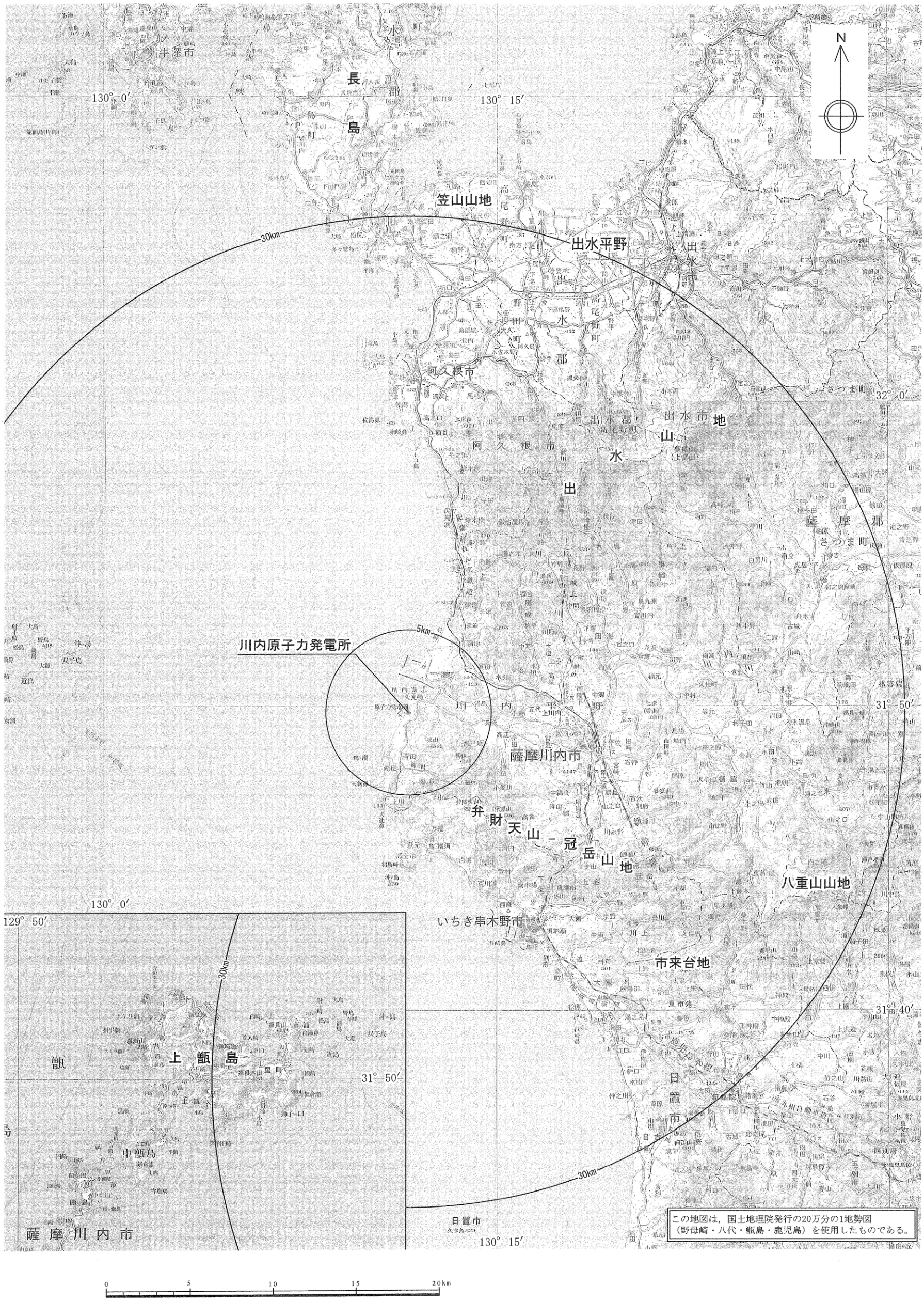
*金折ほか（1978）等を基に作成

第 3.2.4.7 表　石英粒子表面構造の解析結果

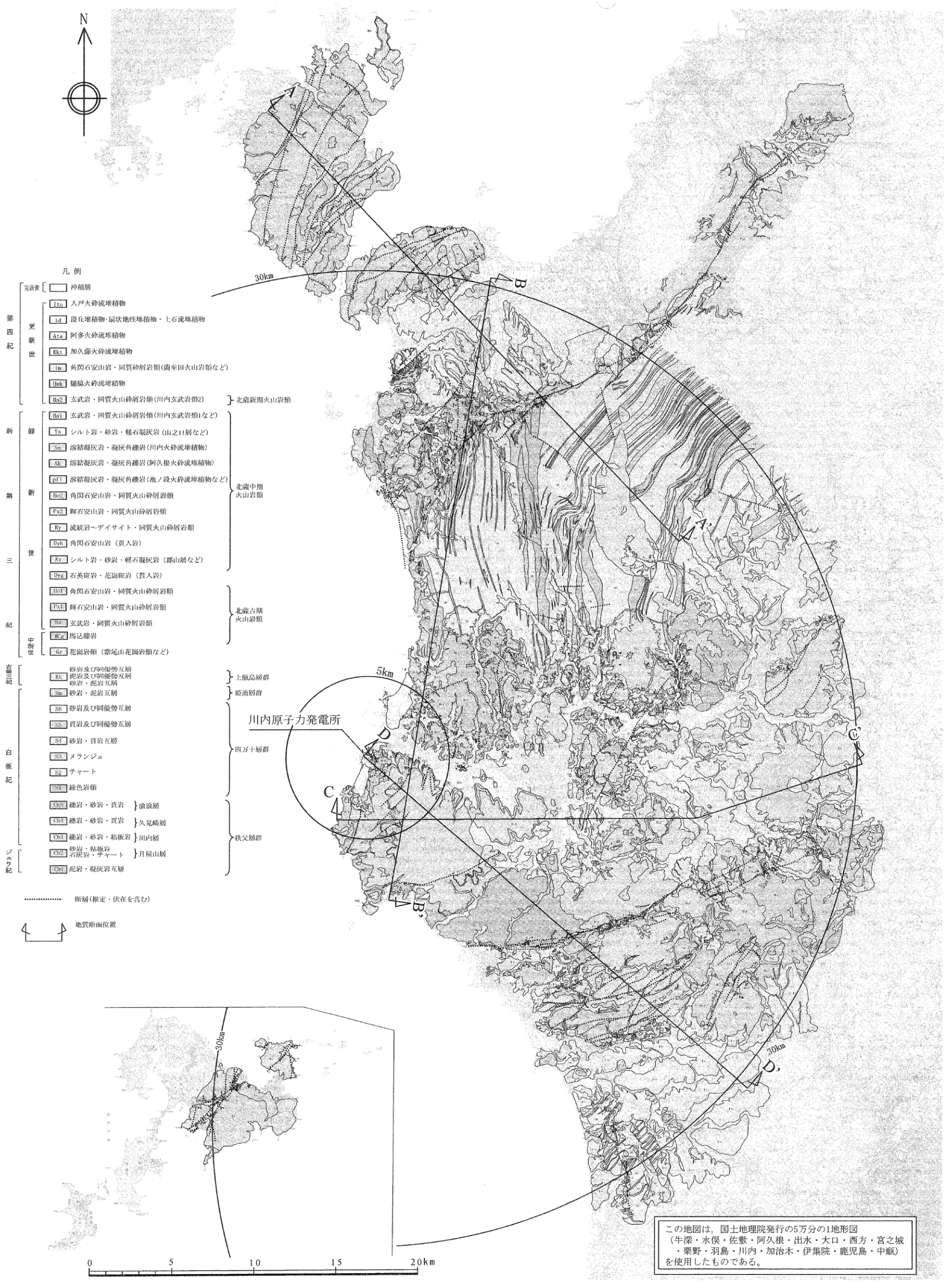
断層名	採取位置	解析結果								合計
		0類	I類			II類	III類	IV類	コーティング型	
			Ia	Ib	Ic					
A－47	トレンチ				15		3	2	6	26
D－45	3号炉調査試掘坑				1		1		19	21
D－48	3号炉調査試掘坑				5				9	14
D－2	1号炉試掘坑				1					1
D－8	ボーリングコア S－6孔			1	8	3	2	2	7	23

第3.2.5.1表　地質調査会社一覧表

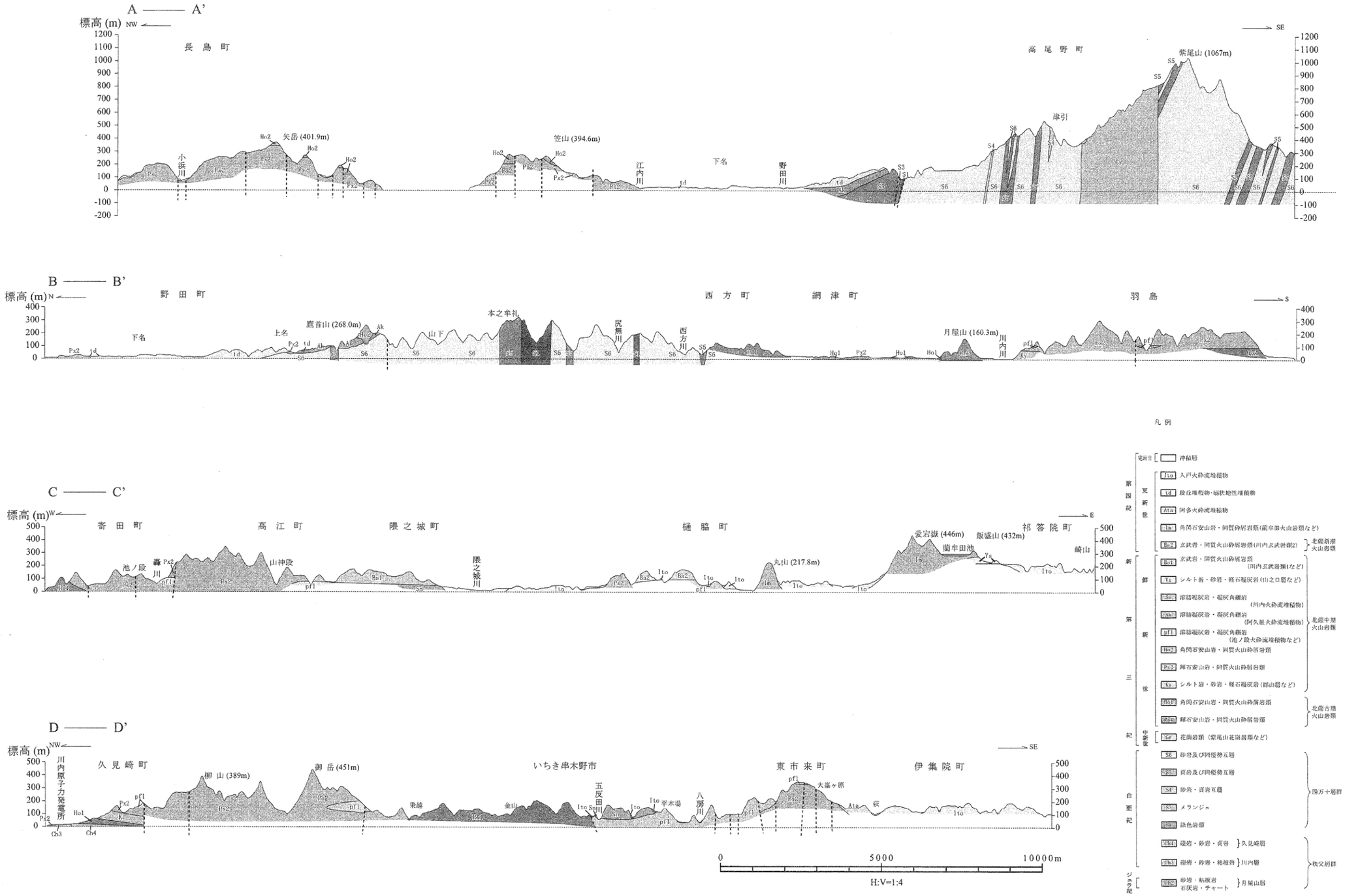
調査名	実施年度	会社名	摘要
ボーリング調査	平成15～19年度	応用地質㈱	敷地内
	平成17～18年度	㈱阪神コンサルタンツ	敷地内
	平成17年度	応用地質㈱	敷地周辺陸域
	平成19年度	㈱阪神コンサルタンツ	敷地周辺陸域
	平成18～19年度	応用地質㈱・川崎地質㈱共同企業体	敷地周辺海域
地質調査	平成15～19年度	西日本技術開発㈱	敷地内
	平成16～19年度	応用地質㈱	敷地内
	平成16～17年度	西日本技術開発㈱	敷地周辺陸域
	平成16～19年度	㈱阪神コンサルタンツ	敷地周辺陸域
	平成17～19年度	㈱阪神コンサルタンツ・西日本技術開発㈱　共同企業体	敷地周辺陸域
	平成16～18年度	川崎地質㈱	敷地周辺海域
	平成17～19年度	川崎地質㈱・西日本技術開発㈱　共同企業体	敷地周辺海域



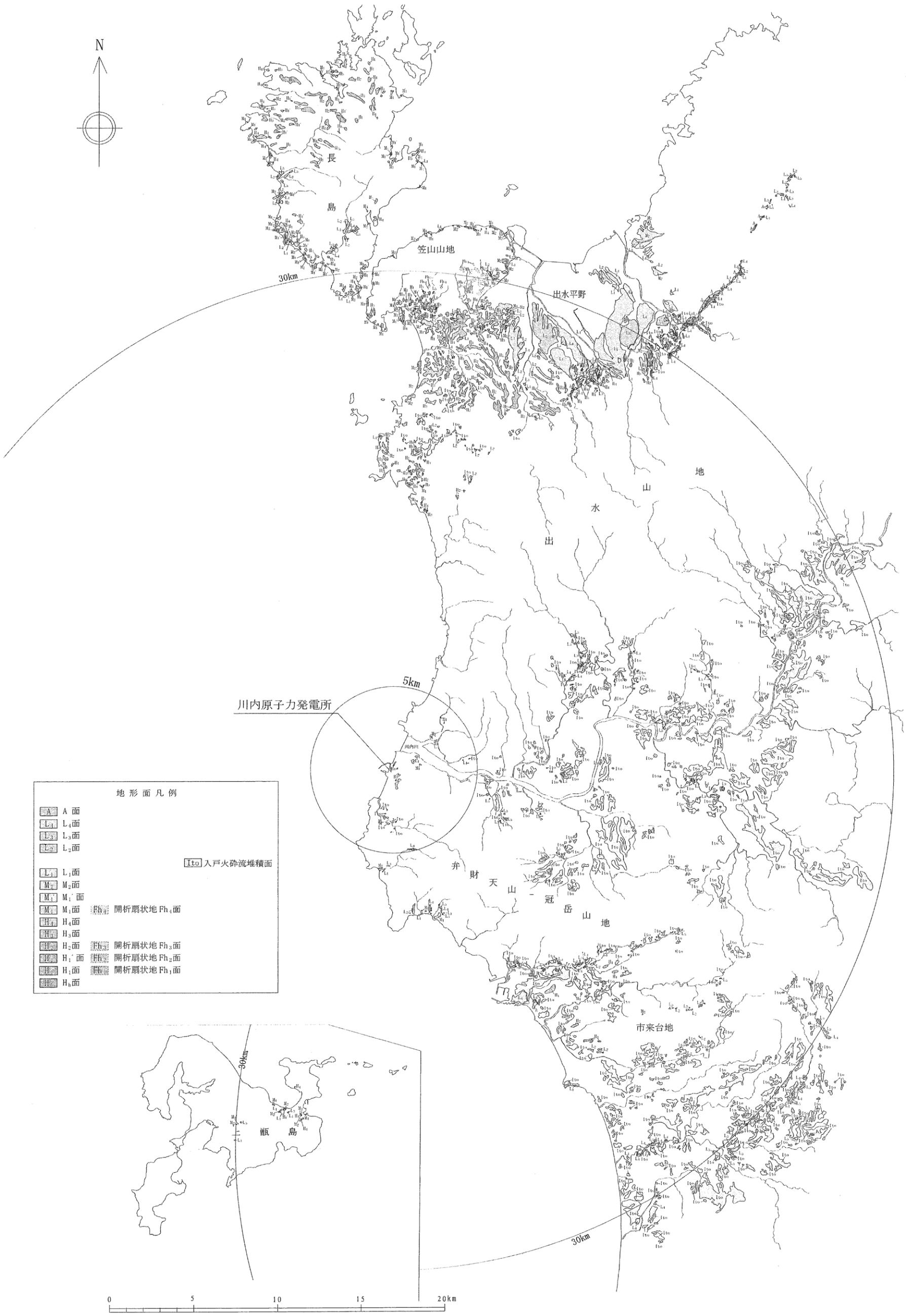
第3.2.2.1図　敷地周辺陸域の地形図



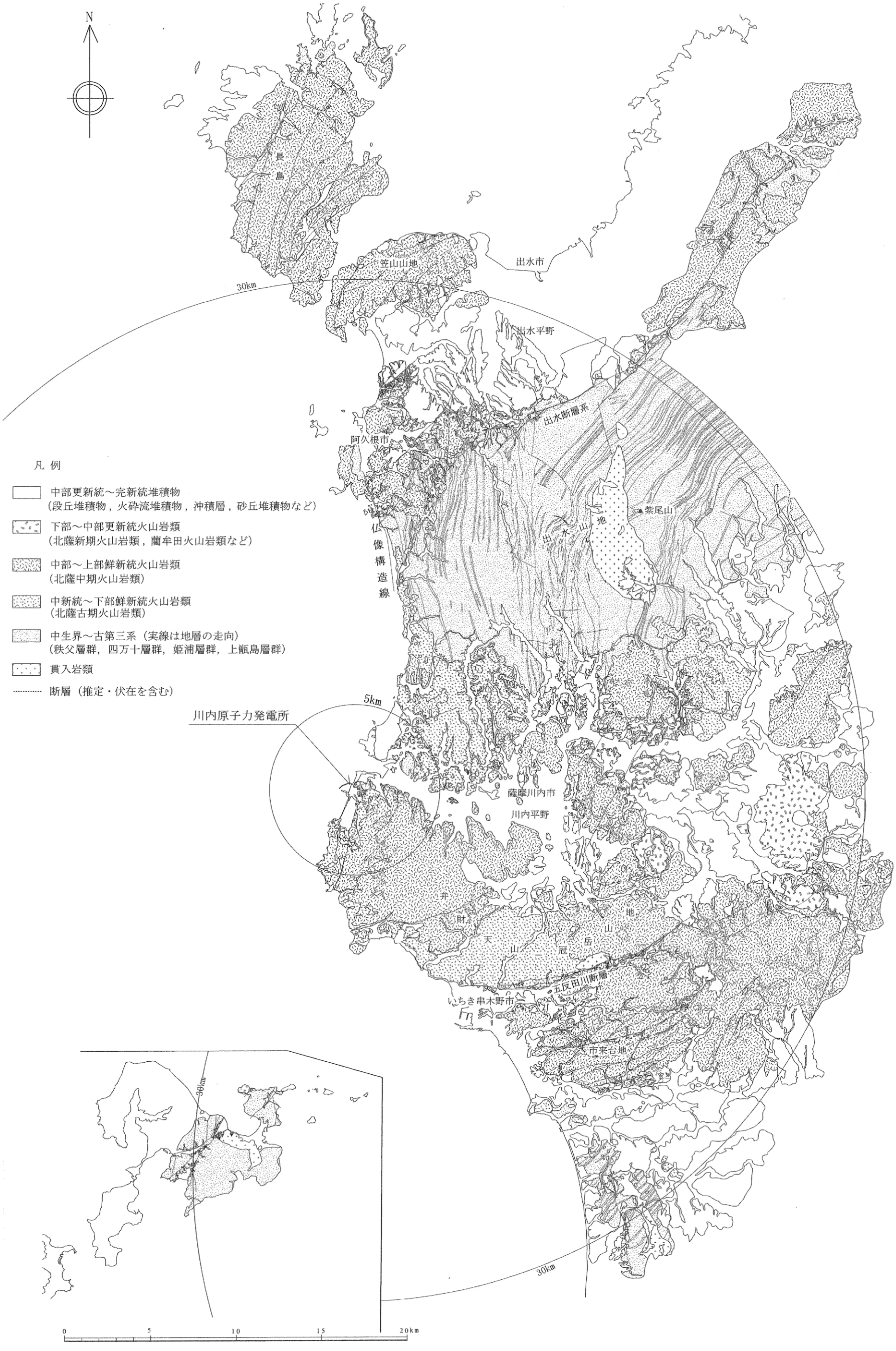
第3.2.2.2図　敷地周辺陸域の地質図



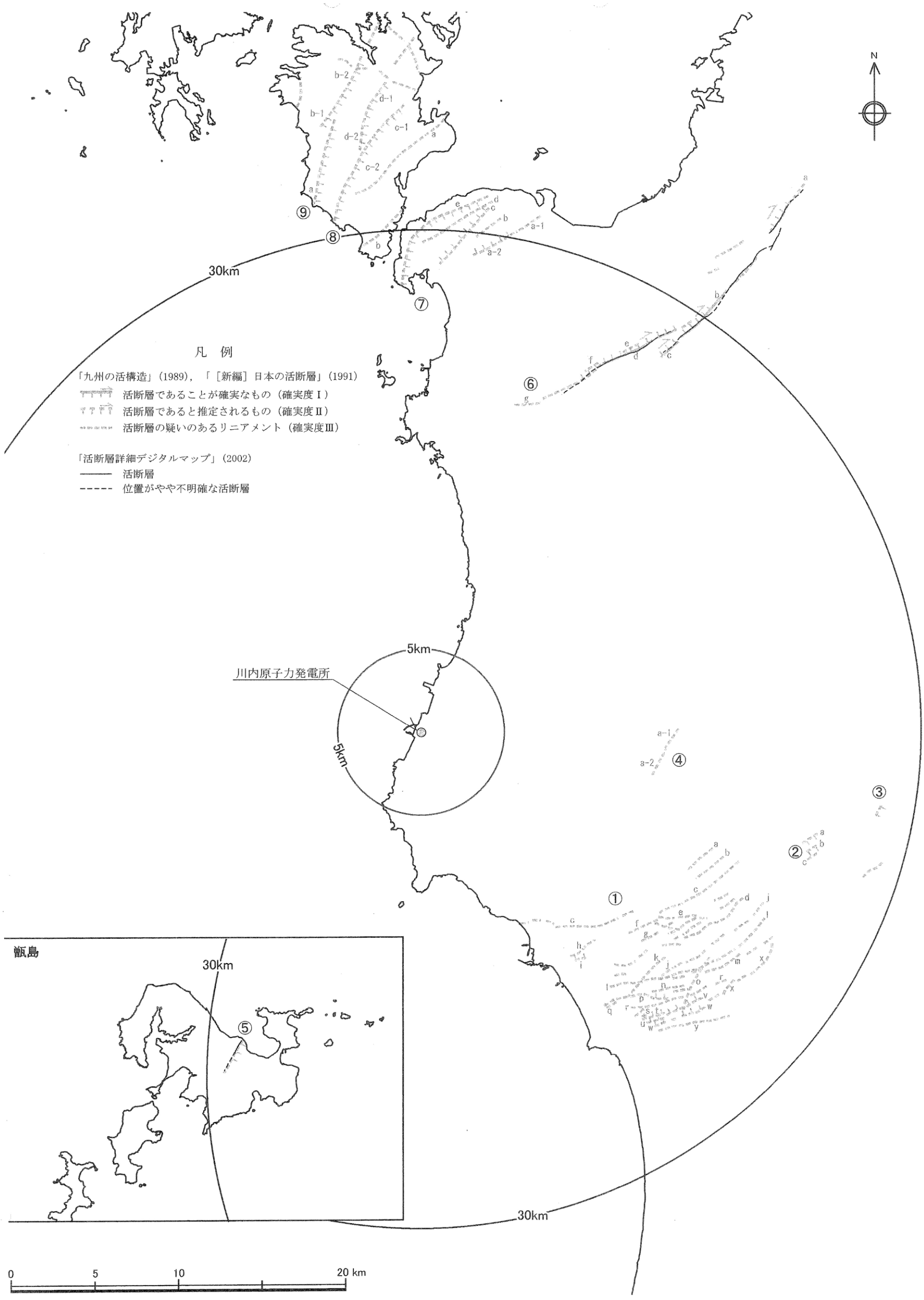
第3.2.2.3図　敷地周辺陸域の地質断面図



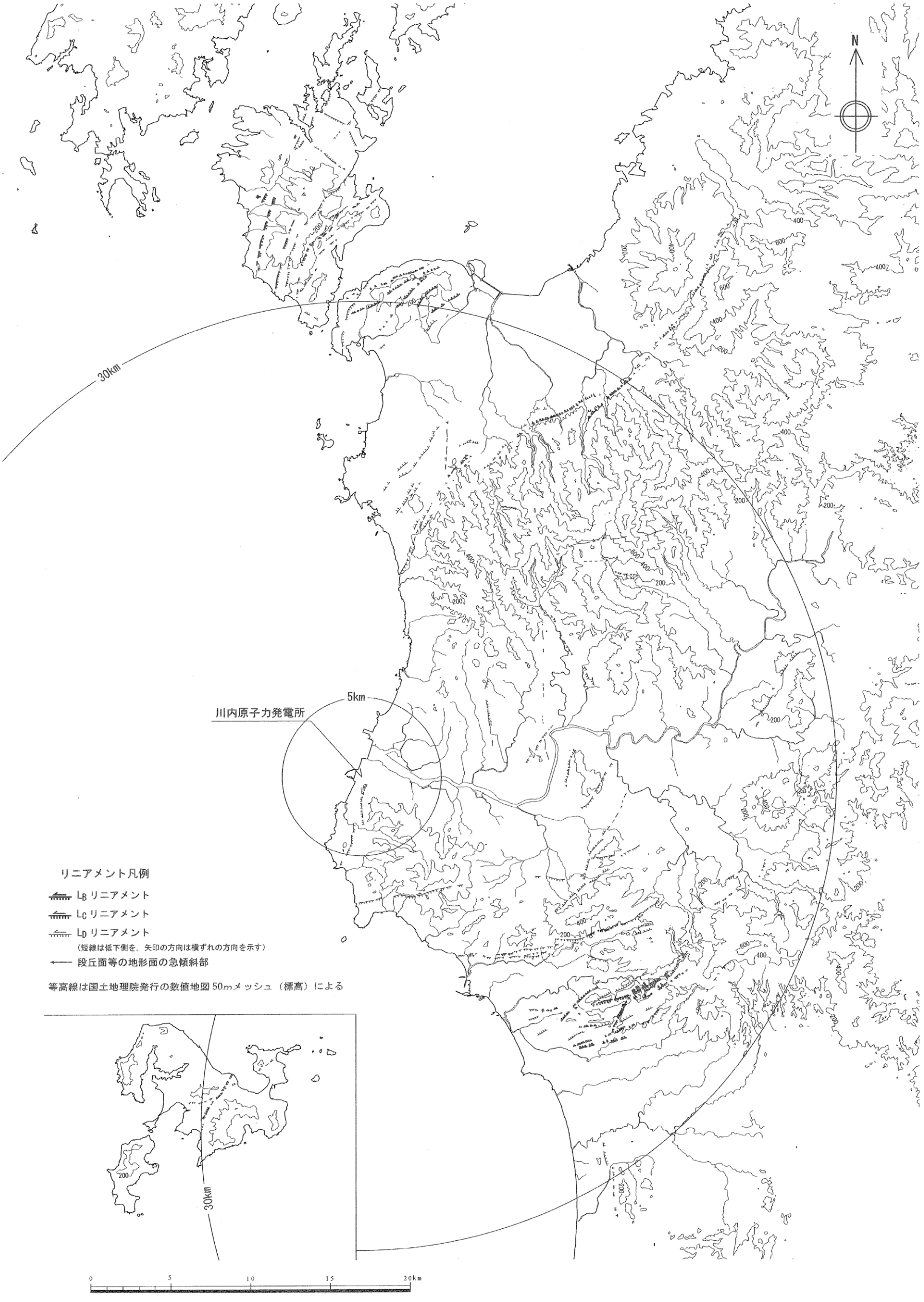
第3.2.2.4図　敷地周辺陸域の段丘面分布図



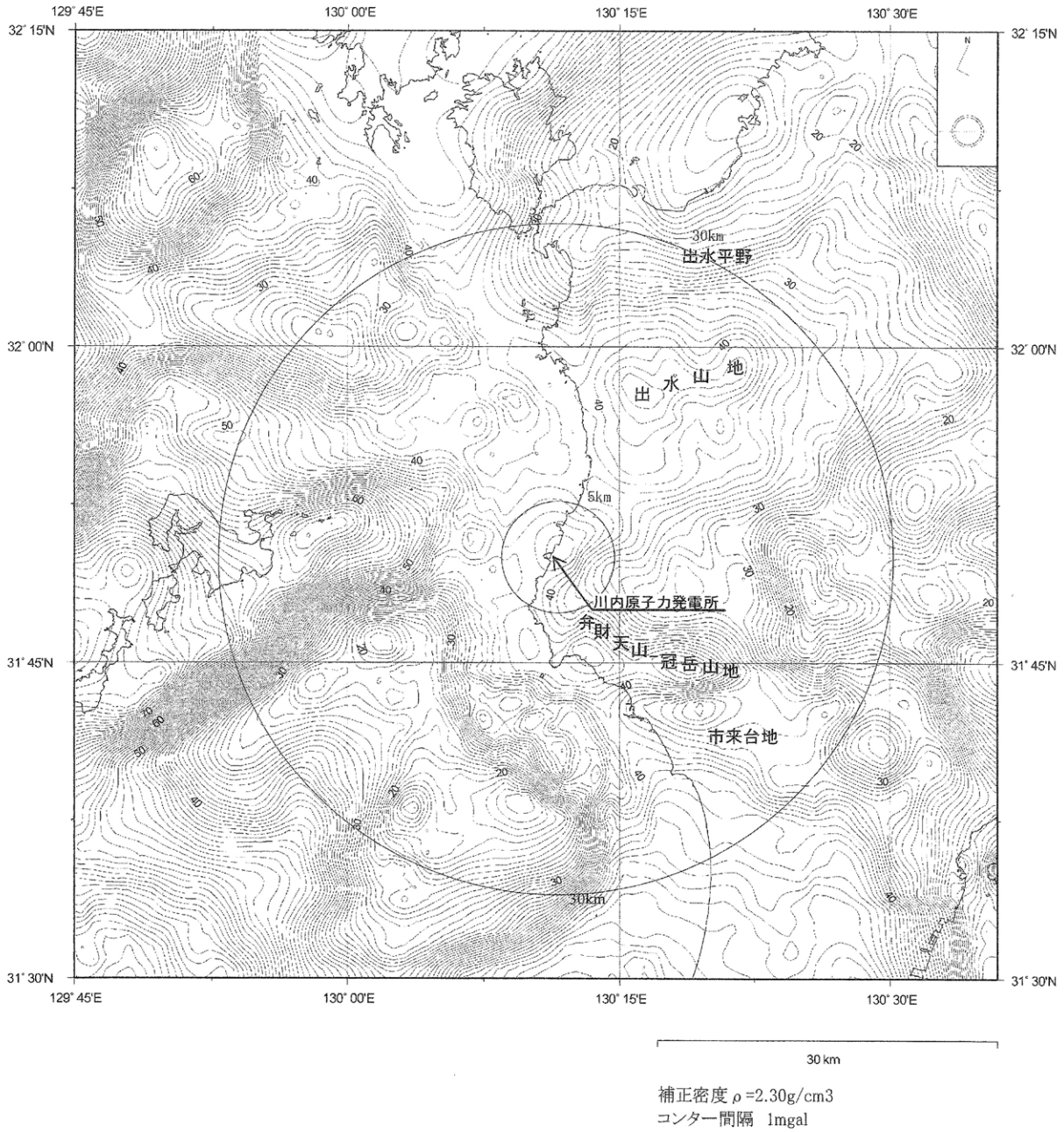
第3.2.2.5図　敷地周辺陸域の地質構造図



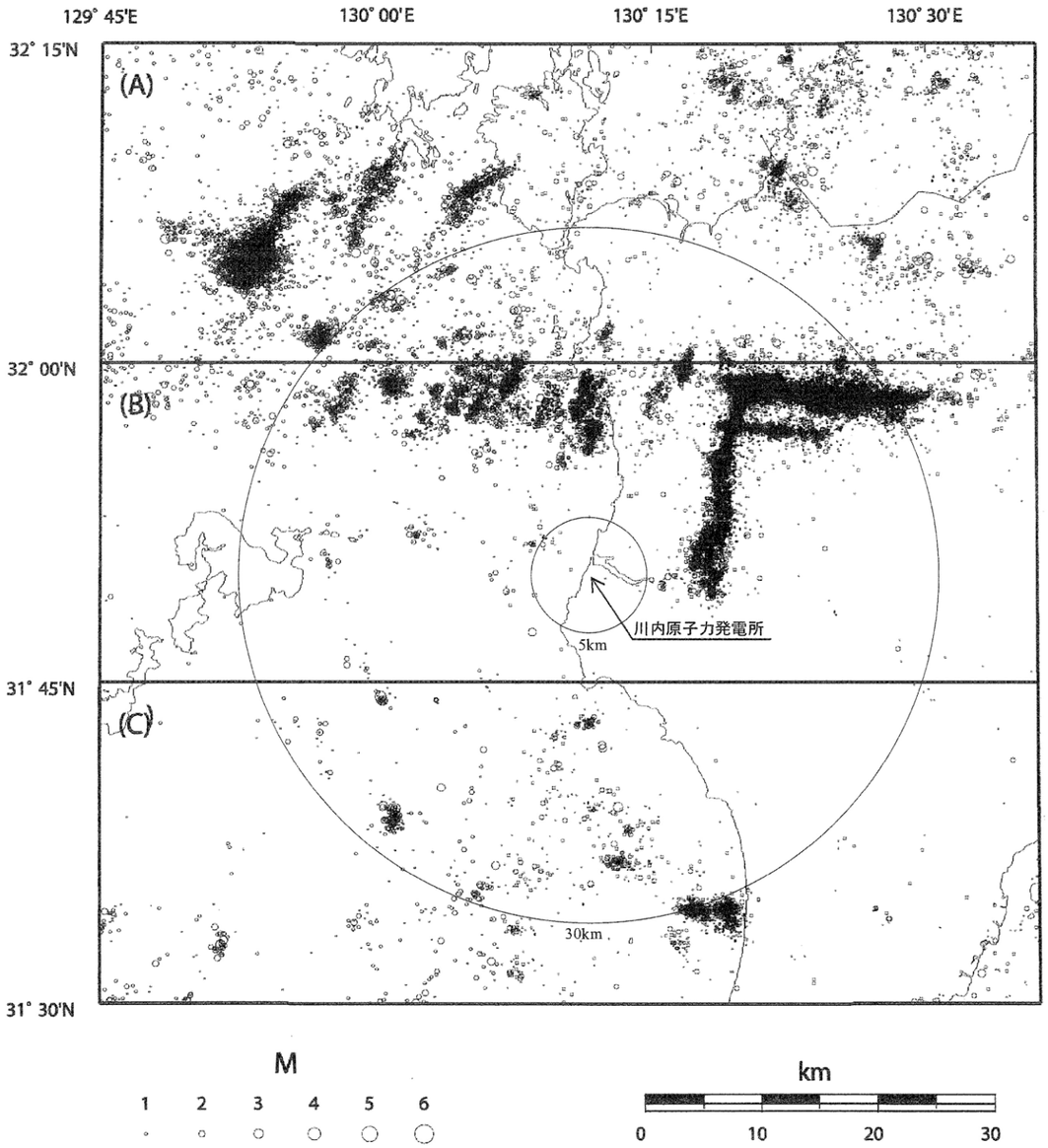
第3.2.2.6図　文献による活断層・リニアメント分布図

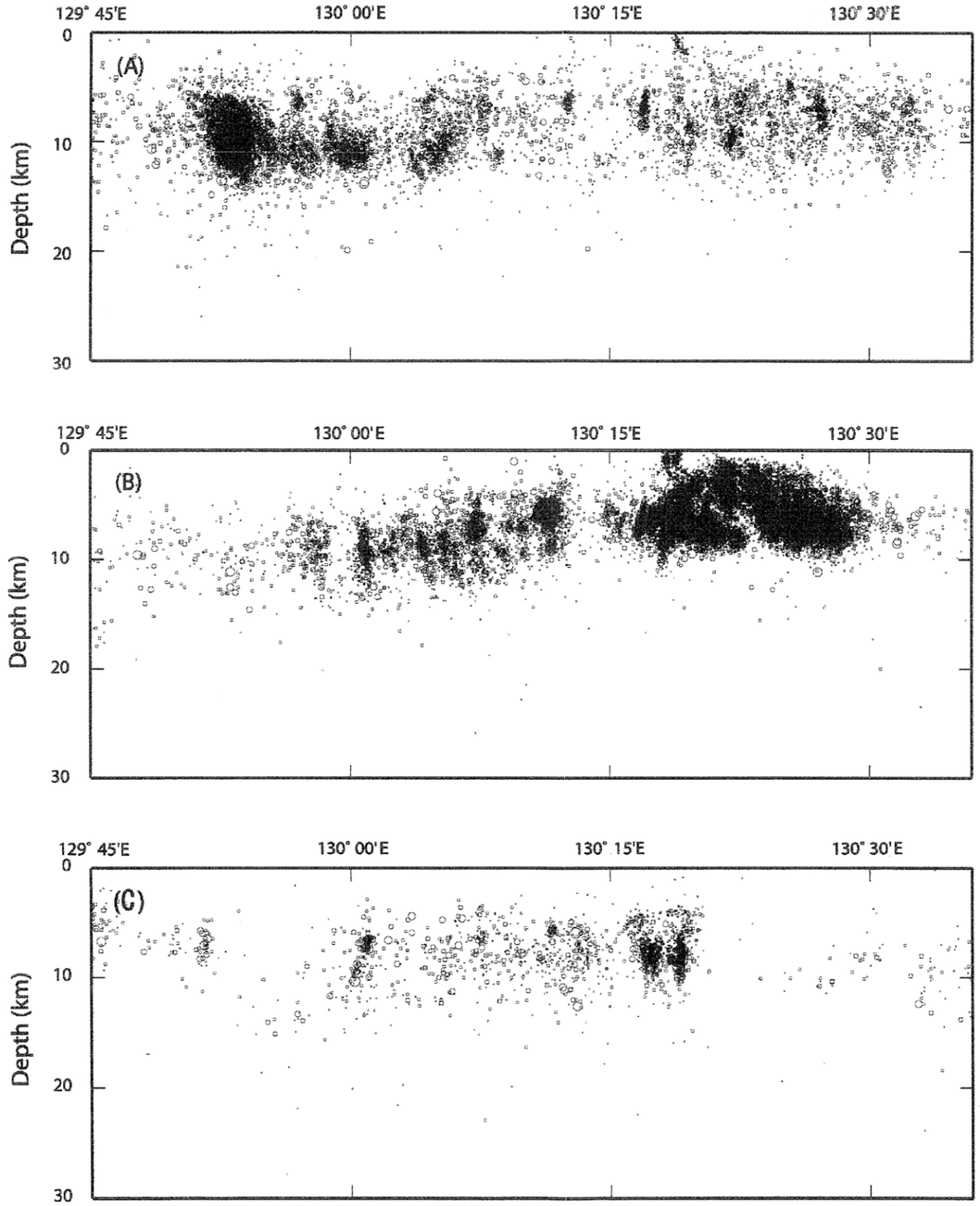


第3.2.2.7図　敷地周辺陸域のリニアメント分布図



第3.2.2.8図　敷地周辺の重力異常図（ブーゲー異常）





財団法人地震予知総合研究振興会と鹿児島大学の共同研究による微小地震データ（1998年3月～2007年12月）

第3.2.2.9図　敷地周辺の微小地震分布図



地形面凡例

- A 面
- L_4 L_4 面
- L_3 L_3 面
- L_2 L_2 面
- Ito 入戸火砕流堆積面
- M_2 M_2 面
- H_2 H_2 面
- H_1 H_1 面
- Lds ドーム状平坦面
- Lps 小起伏台地状平坦面
- Rsb 尾根状小起伏平坦面 b
- Rsa 尾根状小起伏平坦面 a

リニアメント凡例

- L_B リニアメント
- L_C リニアメント
- L_D リニアメント

(短線は低下側を，矢印の方向は横ずれの方向を示す.)

- 段丘面等の地形面の急傾斜部
- 200 反射法地震探査解析測線 (数字は CMP 番号)
- ルートマップ範囲

第3.2.2.10図　五反田川断層・市来断層系周辺の空中写真判読図